令和　　6　　年度

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	カンガルー療育支援室　横浜東部ステーション			
○保護者評価実施期間	2024年　2月　1日	～	2024年　2月　28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	29名	（回答者数）	19名
○従業者評価実施期間	2024年　2月　1日	～	2024年　2月　14日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	8
○事業者向け自己評価表作成日	2024年　3月　3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種との連携でそれぞれが役割を果たし子どもの最善の利益を考慮して支援ができている	・看護師は子ども一人一人の状態を理解し、医療的な配慮を行い、医療的ケアを含めて安全に見ていけるよう支援を行っている。 ・児童指導員はこども一人一人の可能性を理解し、さらにその可能性が伸ばせるような活動、支援を行っている。 ・理学療法士は、一人一人の身体的な特徴を理解し安楽な姿勢や移動、操作などを支援している ・音楽療法士は独自の視点で音楽を通し、一人一人の可能性を伸ばすよう支援している。	お互いにいろいろな意見を出し合うことでさらに子どもにとって最善の利益となる支援ができると思うので、意見を出し合える環境を作り、活動内容や支援内容を充実させていく
2	児童発達支援では朝の会、放課後デイでは始まりの会を実施して帰りには終わりの会を行っていること	・朝の会や始まりの会ではで日付け、天気、お名前、スタッフに紹介今日の活動の発表、体操を行っている。 ・朝の会で子ども一人一人の心身の様子を把握している。 ・子どもたちはみんなの前で名前を呼ばれることで集団のなかで自分と他者を意識したり、自己意識の確立を目指している ・子ども一人一人の返事や反応を待ち、褒める ・スタッフ紹介では人に目を向けてもらえる喜びを感じる ・活動に対する期待感なども芽生える ・始まりと終わりを理解することができる	朝の会、始まりの会の内容をまた検討して充実させていく 例えばスイッチなどを使ってみるなどの方法も検討する。 朝の会、始まりの会を行うことで子どもの状態を理解しまた、一人一人の子どもの反応がありそこを見つけてあげ理解してあげることで子どもとの信頼関係も深まるよう努力する
3	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い子どものことについての情報共有を行っている	・活動内容や支援内容は連絡帳に記載を行っているが、それだけでは伝わらない表情や行動など送迎時等で伝えている ・なんとなく様子がおかしいなどがあれば家での様子や 　学校での様子を聞き職員みんなで情報共有を行っている ・保護者の申し入れや相談、要望には迅速に対応している ・体調の問題や医療的ケアの問題など不明な点があれば必ず確認をしている。	保護者との信頼関係もとても大事にしている。今後も 保護者や子どもが安心して通ってもらえるために努力して行きたい

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事故防止マニュアル、緊急対応マニュアル、防犯マニュアル、感染対応マニュアル等の保護者への周知ができていない 安全計画を立て、計画的に研修を行うができていない	マニュアルは策定しているが、保護者への周知までは考えていなかった。こういうマニュアルがあり研修を行っていることなどを保護者に周知する必要がある。	これまでは、時間があるときに研修を行っていたが 今後は計画的に研修を行って、研修の計画や実施の内容 など保護者に周知していきたいと思う
2	保護者同志の交流や地域の交流ができていない	今年は児発の運動会は保護者を呼んで実施した。保護者も喜んでくれた。 放デイは時間が時間が短く保護者の希望はないと思っていたが今回の評価で希望もあった。 地域との交流もそれほど必要と考えていなかった	今後は、保護者が参加できるイベントなどを検討する （音楽療法等の参加、見学会など） 地域との交流は例えば地域での行事やイベントなどに 参加してみるなどから実施してみる
3			